

「盛岡支社・秋田支社における乗務員基地再編の詳細」に関する申し入れ①

1項 施策実施後の教育訓練に関しては線区の特情を考慮し、これまでの転入者に行っていた教育方法とすること。

2項 施策実施後のハンドル訓練の指導担当は指導操縦者とし、単独乗務までは基本的に同一の指導担当とすること。

組合

- ・「転入者の経験に応じた教育を実施」としているが、再編後の教育をどのように考えているのか。
- ・大館運輸区なら本線より五能線ということか。
- ・教育期間の目安は。
- ・大館運輸区では津軽線の見極めを行わないと言われているが、五能線ではおこなうのか。
- ・これまでの教育は実施日が決まっていることからタイトであり厳しかった。これからは元に戻すのか。
- ・つがる運輸区は指導操縦者を増やすべきである。

会社

- ・大館運輸区からの転入者は五能線や津軽線を重点的に教育する。
- ・奥羽線は乗務しているので、五能線を重点的におこなない時間をかけず効率的に教育できる。
- ・施策実施後は、各区において転入者教育期間が目安としてあるので準じていく考えではあるが、効率的にできないかは検討していく。
- ・見極めという形が良いのかまだ決まっていない。単独乗務できるか判断は区長か指導担当になる。社員説明で示していく。
- ・基本は交番の流れでおこない習熟を見ていく。
- ・上申時期も決まっているので、そこに合わせて考えていく。

3項 津軽線乗務に対する個人把握を丁寧に行い、ダイヤ改正時に単独乗務が不安な乗務員についてサポートできる体制をとること。

組合

- ・1月からフォローをおこなうことになっているが、非常に不安な声が多い。何か考えはあるか。
- ・1回乗務し次の乗務まで期間が空いてしまうので覚えられない。
- ・車掌も不安であればサポートするのか。
- ・会社としてどう不安等の個人把握するのか。

会社

- ・再編まで日数が決まっているが、ギリギリまで再々フォローも含めてやっていく。
- ・指導担当添乗や二人乗務などもあるが、不安で乗務できないのであれば行路を外すことも考える。
- ・サポートしていく。
- ・普段のコミュニケーションなどで個人把握しているように、運輸区に話をしていく。

4項 車掌の津軽線の教育について本務としてドア扱いを行うこと。

組合

- ・実施日までに本務として経験できないか。
- ・デジタル無線機の取り扱いなど、経験できていない。
- ・車掌のシュミレーターでの補完教育では、横側の景色がないため放送ポイントまで確認出来ない。

会社

- ・決められたスケジュールの中で、ドア扱い、客扱い等を本務でということより、線路や駅の形状をゆっくり覚えるための教育にした。
- ・無線機については区とも相談し検討する。
- ・意見として受け止める。